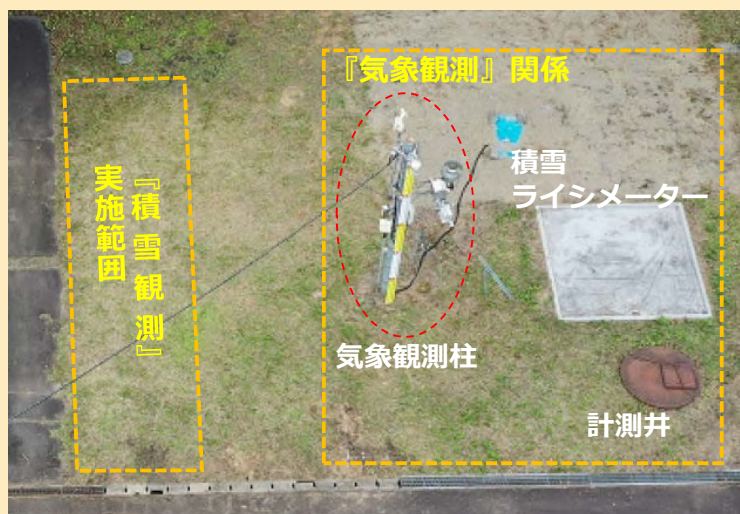


雪崩・地すべり研究センター構内における気象・積雪観測

1. 観測場所 雪崩・地すべり研究センター構内（東経138.238299、北緯37.016844、標高106.5m）



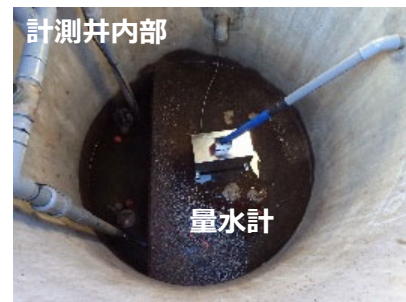
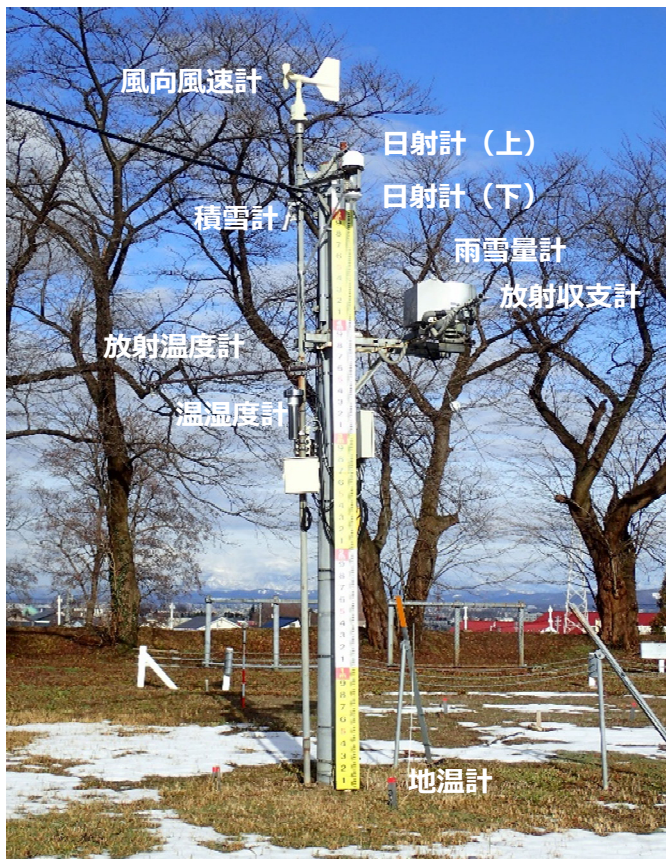
夏季の露場



冬季の露場

2. 気象観測

【観測機器設置状況】



- ・積雪底面からの浸透水を集水し、計測井内の量水計で『底面流出量』として計測
- ・積雪ライシメーター内に珪砂を充填する場合もあるが、当センターでは、充填せず集水を行い底面流出量を計測している。

【観測項目と観測機器】

観測項目	観測機器名・型番（メーカー）	設置高さ
風向・風速	風向風速計WA7601（横河電子機器）	6.5m
気温・湿度	温湿度計HMP155（VAISALA）	3.2m
地温	Pt温度計Pt100（横河電子機器）	-0.15m
日射（上）	日射計MS-402F（英弘精機）	5.5m
日射（下）	日射計MS-402（英弘精機）	5.0m
降水量	いっすい式雨雪量計B-071（横河電子機器）	4.5m
積雪深	レーザー式積雪計KDC-S18-L-10（ノースワン）	5.0m
気圧	気圧計PTB110（VAISALA）	3.0m
雪面温度	放射温度計SI-411（Apogee）	3.5m
放射収支	放射収支計NR Lite2（Kipp&Zonen）	4.0m
底面流出量	量水計UIZ-TB500（ウイジン）	-

【データ整理方法】

サンプリング間隔：10分

整理方法：10分データを日単位データに整理（観測要素により最大、平均、最多、最高、最低、積算）
→ 月表（日単位データを月単位でとりまとめ）形式で公開

雪崩・地すべり研究センター構内における気象・積雪観測

3. 積雪観測

- ・観測項目：気温、雪温、積雪深、層構造（雪質）、粒径、硬度、密度（層毎、全層）、含水率
- ・観測頻度：各月5日、15日、25日を標準とし、おおむね10日間隔

観測項目	使用機器名・型番（メーカー）
気温・雪温	防水型デジタル温度計（サーミスタセンサー）・SK-1260（佐藤計量器製作所）
粒径	粒度ゲージ
含水率	デノース式含水率計（誘電方式）・PSI-101（ジオシステムズ）
硬度（プッシュプルゲージ）	デジタルフォースゲージ・ZP-500N（イマダ）
密度（層毎）	角形密度スノーサンプラー
密度（全層）	神室式スノーサンプラー

【観測方法】

雪温：10cm間隔で温度計により計測
 積雪深：雪尺を地面が0になるよう鉛直に立てて計測
 層構造・雪質：目視で観測 雪質は「雪質分類」（日本雪氷学会，1998）に従う
 粒径：各積雪層毎に粒度ゲージを使用し目視で観測
 密度（層別）：各積雪層の中央で角形密度サンプラー（100cc）により計測
 含水率：各積雪層の中央でデノース式含水率計により計測
 硬度：各積雪層の中央でデジタルフォースゲージにより計測
 密度（全層平均）：神室式スノーサンプラーにより全層の雪を採雪して計測

※観測の方法は概ね「積雪観測ガイドブック」（日本雪氷学会）に因る

雪温計測



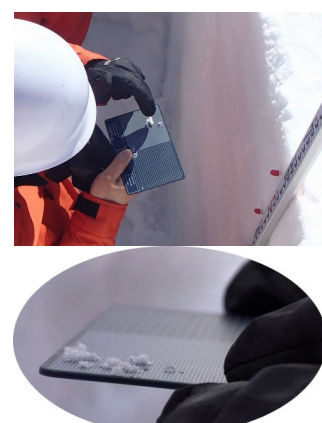
積雪深計測



層構造・雪質観測



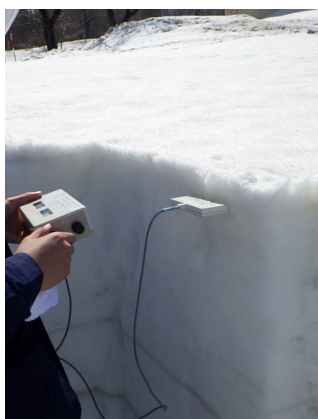
粒径観測



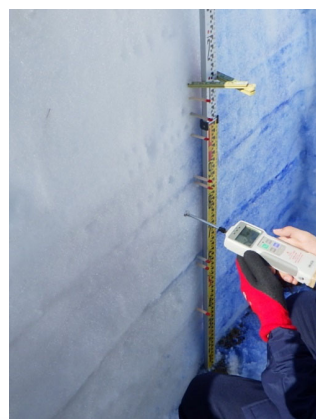
密度計測（層別）



含水率計測



硬度計測



密度計測（全層）

